

# 津ライスニュース 令和4年産 第3報

令和4年7月8日

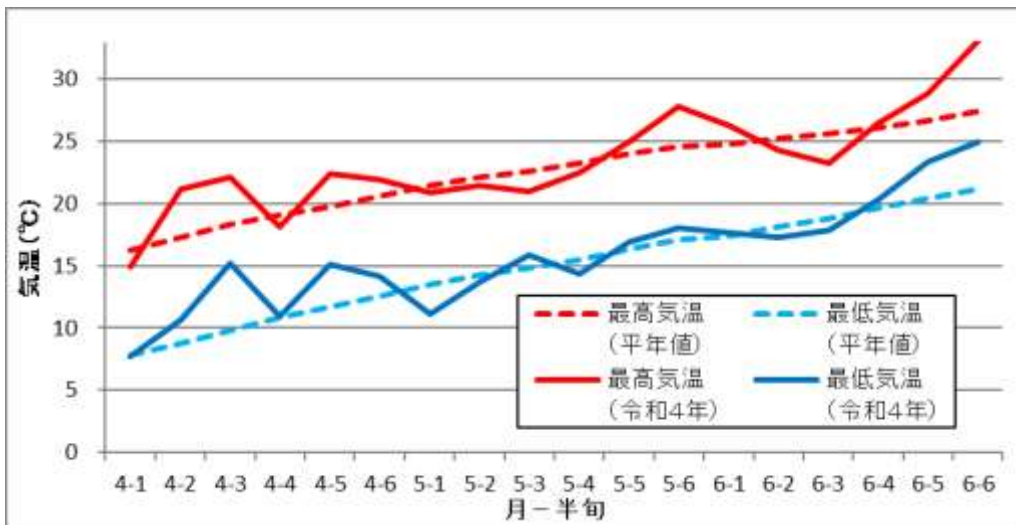
津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

梅雨空けが6月27日と非常に早く、今後は気温の高い日が続きそうです。また、今夏は、猛暑となる予想となっており、米の品質への影響が懸念されます。幼穂形成期以降の水管理については、水を張りっぱなしにせず、間断かん水にして、土壌に酸素と水分を供給して根の老化を防止しましょう。また、いもち病、カメムシ等の病害虫防除を適期に行いましょう。

## 気象経過

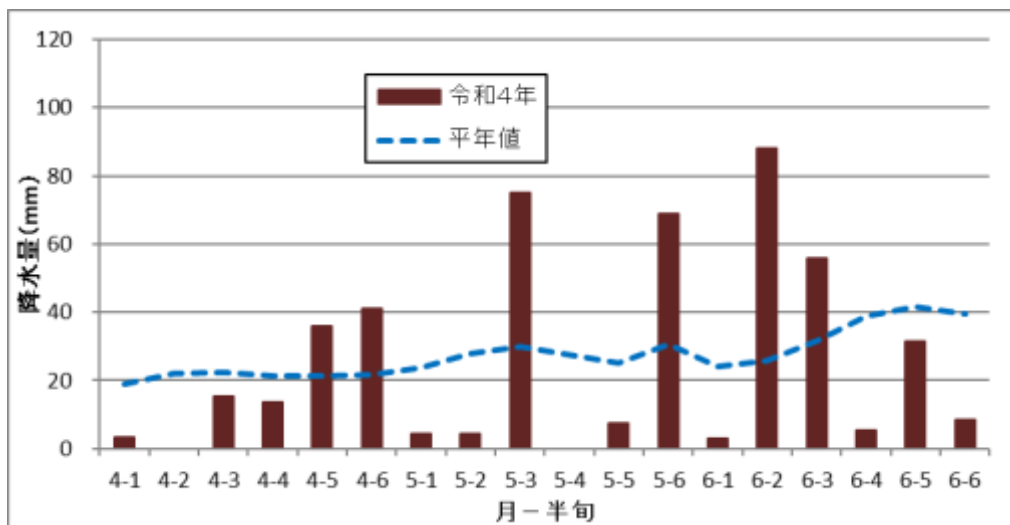
### <気温>

5月第1半旬から5月第5半旬にかけて気温が低く推移し、6月第4半旬以降は平年より高めに気温が経過しています。



### <降水量>

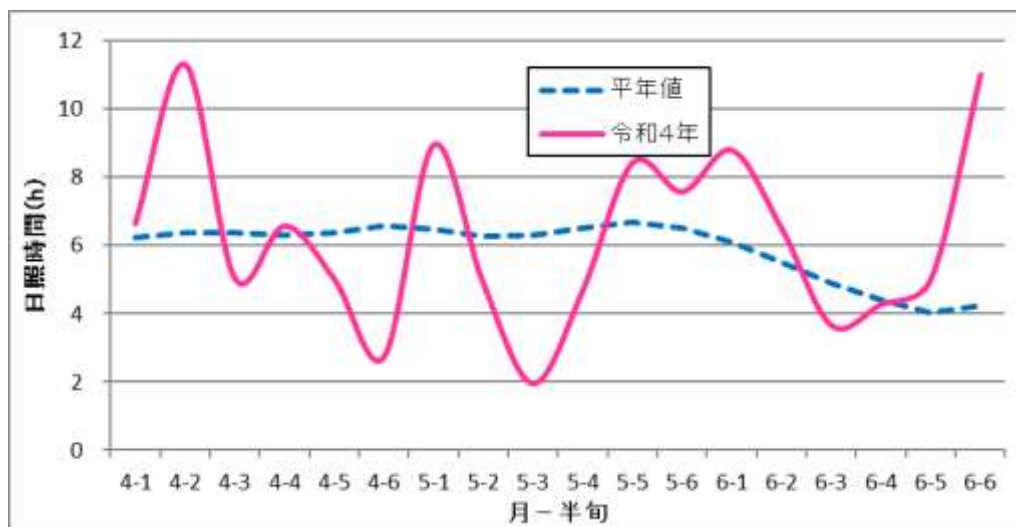
5月中旬にまとまった降水量がありましたが、5月は降水量が少なく推移しました。梅雨入り後の6月初旬は、降水量が多くなりましたが、6月中旬以降は降水量は少なく、例年より早い梅雨明けとなりました。



## <日照時間>

5月第3半旬はまとまった雨の日が多く、日照が少なくなりました。

梅雨入り後の6月第3半旬は日照時間が少なくなりましたが、6月第4半旬以降は日照時間が多くなりました。



気象庁の3ヶ月予報によると、

7月：期間の前半は曇りや雨の日が少なく、後半は晴れの日が多いでしょう。

8月：晴れの日が少ないでしょう。

9月：天気は数日の周期で変わるでしょう。

3ヶ月間の平均気温は高い確率50%です。

## 生育の概況

田植え盛期である4月末から5月上旬にかけて、風の強い日もあり、植え傷みをしたほ場がみられました。また、5月上旬から中旬にかけて気温が低く、初期の生育が遅れました。6月中旬以降から気温が高く推移したため、生育は概ね平年並みとなっています。

6月27日に梅雨明けし、7月以降も気温が高い予報となるため、今後生育は早まる見込みです。

## 令和4年産水稻生育基準田 調査データ

### R04年産水稻

R04.7.1時点

調査場所	移植日	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	葉色 SPAD	移植後日数
殿村	4月10日	70.0	393.7	39.8	66
安濃	4月27日	75.7	474.4	36.8	49
白山	4月25日	73.5	429.8	38.7	51

## (参考)令和3年産水稻生育基準田 調査データ

### R03年産水稻

R03.6.30時点

調査場所	移植日	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	葉色 SPAD	移植後日数
殿村	4月15日	66.5	486.7	33.9	76
安濃	4月25日	72.7	359.5	35.1	66
白山	4月27日	68.0	409.7	35.1	64

## 病害虫の発生状況と対策

### <いもち病>

いもち病の感染適温は25～28℃となります。今後、雨の日が続き、高温多湿で感染に好適な条件が揃うと、本田でのいもち病発生が懸念されます。津管内では一部でいもち病の発生が確認されています。

いもち病発生予測支援システム(ブラスタム)による発生予測において、津管内では6/12と6/19に好適条件が確認されています。感染源(補植用の置き苗など)を減らすとともに出穂期前後の時期を主体に防除を実施しましょう。

いもち病発生予測支援システム(ブラスタム)

【<https://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39584007416.htm>】

または「三重県 ブラスタム」で検索を。

### <斑点米カメムシ類>

中山間地域を中心に畦畔等、ほ場周辺での発生が見られます。今後の発生状況に注意しましょう。特に一部地域において、クモヘリカメムシの発生が多く見られます。

今年はお穂が早まる見込みとなりますので、適期防除を実施しましょう。

- ・カメムシ類の増殖場所となるような畦畔雑草を早めに除去しましょう。
- ・草刈りは出穂10日前までに行いましょう(出穂直前や出穂後の草刈りは、水田への害虫侵入を助長します)。
- ・防除は穂揃期を中心に行い、発生が多い場合は、その1週間後(乳熟期)を目安に追加の防除を実施しましょう。なお、剤によって散布適期が異なるため、注意してください。

### <ウンカ類、コブノメイガ>

通常は、9月中旬以降に収穫する中晩生品種や6月植えでの被害が多く、ウンカでは、トビイロウンカによる収穫前の坪枯れ、コブノメイガでは7月中旬以降の葉の食害が問題となります。カメムシ防除に用いる薬剤で効果があるので、カメムシ対策と兼ねて防除を実施しましょう。できるだけ薬剤が株元にかかるよう散布してください。

## 今後の栽培管理

### <中干し後の水管理>

- ・5月初旬までに植えた早生品種では幼穂形成期に入っています。中干しを終了し、水を掛け始めましょう。
- ・中干し直後は根が弱っているため、急激に湛水すると根の老化や根腐れによる下葉の枯れ上がりが進むことが懸念されます。浅く入水→自然に引くのを待つ→浅く入水というように間断かん水を行いましょう。
- ・幼穂形成期～出穂・開花期～登熟中期(出穂後25日頃まで)は水が最も必要な時期になります。水を切らさないよう間断かん水を心掛けてください。特に出穂・開花期に強風を受けると茎葉からの蒸散が多くなり、脱水症状により白穂や籾の褐変が発生します。台風や大風が予想されるときは湛水しましょう。
- ・落水を早くしすぎると白未熟粒の発生を助長します。収穫7日前までは落水せず、足跡水程度の水分を維持しましょう。

## <穂肥>

穂肥は適期に適量を施用しましょう。

**※全量基肥肥料(一発基肥)施用田は原則穂肥は必要ありません。**

ただし、登熟期に高温が予想される場合は、白未熟粒対策として出穂期に窒素成分で1kg/10a程度の追肥を行うのが有効です。

**※施肥過多は食味低下の要因になるとともに、倒伏・穂いもちの発生を助長するので注意しましょう。**

○穂肥の施用効果が期待できる稲の姿とは

- ・葉色が薄くて(葉色 4.5 以下)、葉が直立している。(株元スッキリ)
- ・地際の節が短く(第4節間が3cm程度)、茎が太い。
- ・過剰な分げつが少なく、草丈が70cmを超えないこと。
- ・病害(特にいもち病、紋枯病)の発生が少ないこと。

○穂肥の施用時期

◇一回目

- ・コシヒカリ 出穂 18～15 日前(幼穂長 1.0～2.0cm)
- ・その他品種 出穂 22～20 日前(幼穂長 0.5cm)

◇二回目

- ・一回目の穂肥施用 7～10 日後

コシヒカリの穂肥施用の目安(資材は例)

葉色(葉色板)		3.5～4.0	4.0～4.5	4.5 以上
草丈		65 cm	70 cm	75 cm以上
NK 化成7号 (17-0-17)	一回目	10～15kg/10a	7～10kg/10a	やらない
	二回目	10kg/10a	10kg/10a	10kg/10a
IB045 (20-4-5)	一回目	20kg/10a	10kg/10a	やらない

(参考)

○水稻生育予測

【令和4年6月30日現在】

品種	移植期	幼穂形成期の予測日	出穂期の予測日	(平年との差)
コシヒカリ	4月25日	6月27日	7月17日	(4.1日早い)
	5月10日	7月4日	7月25日	(3.6日早い)
みえのゆめ	4月25日	7月7日	7月30日	(4.4日早い)
	5月20日	7月16日	8月7日	(3.8日早い)
三重23号	4月25日	6月22日	7月13日	(0.8日早い)
	5月10日	6月29日	7月21日	(0.3日早い)

※メッシュ農業気象・水稻生育予測システムVer. 2.0による生育予測です。□  
田植え後の植え傷み等による生育遅延は考慮されていません。